

第2期 連続研修会

（平成26年11月～平成28年2月）

主催：広陵東組実践運動推進委員会

第5回 テーマ

他人からどう思われているのか
気になって仕方ありません

◆ 問題提起 ◆

- ①地域や職場でみんながやっているようにしなければ疎外感を感じます。みんなに合わせてほうがよいのでしょうか？
- ②あるがままに生きている人を見るとうらやましく思います。しかし、そのように生きたら身勝手に思われて、関係が壊れるのが恐いのです。
- ③「自分らしく」生きたいと思っていますが、「自分らしさ」をどうやって見つけたらよいのですか？

ふじてつや
藤 哲哉

講師紹介

1966（昭和41）年
11月13日生

本願寺派 善福寺住職

【趣味／特技】

カープ坊主の会主催者。
レコード収集。そば打ち。法務の傍ら、愛あるカープの応援とレゲエやソウル、ジャズなどの黒人音楽のレコード収集に勤む毎日。春、秋の彼岸法座では特技のそば打ちで、お聴聞に来られた方々をおもてなし。



他人からどう思われているのか気になって仕方ありません。今回のテーマは社会生活を送る人間ならばだれもが抱える問題です。確かに大多数と歩調

「自分らしさ」とは？
第5回れんげん

「実際の生き方と非常に厳しく対立、また矛盾すること」――武田勝道広陵東組長は今回のテーマについて率直な感想を挨拶で述べ、参加者のお一人お一人が話し合いの中でこの難題に向き合い、有意義な時間を過ごすとして欲しいと期待を寄せました。参加者は21名（申込者23名）於、本願寺広島別院第二会議室／平成27年4月25日実施。『れんげん』も五回目を迎え、

を合わせば、波風も（ある程度）立たず人生を送ることができま。しかしながら、大多数の向かう方向が決して正しいとは限りません。たとえば戦時中は戦争反対を唱える者に容赦ない懲罰が加えられました。

場もだいたい馴染んでまいりました。講師の藤哲哉師は、ご自身の長男が今就職活動の真っ最中であり、書類審査や面接などで問われていることが、正にこのテーマに当て嵌まると、身近な話題で分かりやすく問題提起。参加者は二班に分かれ活発に意見を交わし、会場はにわかに熱を帯びていきました。

班別の話し合い

第I班

助言者 中川英尚（浄光寺）

【問題①に対して】

●合わせなくてもよい場合と、合わせなければならぬ場合と、立場・状況によって変わっていくのではないか。

【問題②に対して】

●自己中心的な考え方が、身勝手につながっていくのでは。●今まで積み重ねた人生観を以てすれば、恐れるべきものではない。

【問題③に対して】

●人から言われて「自分らしさ」というものに気付かされる時がある。自分の思う「自分」と、人から見た「自分」にギャップを感じる。●「自分」と「自分らしさ」では、意味が違ってくるのではないか。

第II班

助言者 法山総貫（妙蓮寺）

【問題①に対して】

●若い頃は周囲に合わせていたが、年齢を重ねると、言いたいことを言うようになった。

【問題②と③に対して】

●自分の個性を認めていくところに、「自分らしさ」が見い出されてくるのでは。●お寺参りをし、どのような生き方をすればいいのか聞かせて頂いている。それはつまり「自分らしく生きる」ことを問い続けているということではないか。●一人一人が十分に個性的なものを既に持っている。ただ困難な人間関係の中で「自分らしさ」を見失っているのではないか。



第7回れんげんの御案内

「公開講座：孤独社会の歪み
自死現場での取り組みに聞く」

講師：和田隆恩 師（大谷派 超覚寺）

- 日時 2015（平成27）年6月27日（土）
午後1時30分～午後4時
- 場所 順教寺（中区西平塚8番4号）

まとめの講義

藤 哲哉

さて、今回のテーマは「他人からどう思われているのか、気になって仕方ありません。」でした。日常生活の中で私たちは近所や町内、職場、友人、親戚など様々な関わりを持ちながら過ごしています。近年の多様な価値観、世代間の思考のズレの中で、他人と折り合いながら、自身の考えや行動をいかに体現していくか、頭を悩ませる問題です。

まず問題提起1について、班別討議の中でも、町内会でのトラブル、職場のしがらみで悩まれたとの意見が多く聞かれました。私自身も以前、小学校のPTA役員会で意見が対立した際に、自己の主張を強くし過ぎて、その後の関係がギクシャクして気まずい思いをした苦い経験があります。やはりある程度、しきたりや慣例に合わせ、相手にわがままを受け取られるような自己主張は慎まなければなりませんね。

第2について、いま世間で歯に衣着せぬ発言や毒舌で大変な人気を博しているタレントにマツコデラックスという人がいます。彼(彼女?)は、大柄な体系に派手な衣装で人目を引きま

す。おまけに大きく太い声で発言されるので、それだけでも人の注目を集めます。

ただ、その発言の内容はよく聞いてみると、意外に常識的で、ごく当たり前の事を話しているらしいです。相手がどんな方でも自分の感じた事を素直に発言しておられるように私は感じています。以前、深夜番組の中でご自身のお話をされているのをテレビで観ていますと、以前働いていた繁華街で周りの皆に馴染もうと、また追い付こうとして盛り場にありがちな無頼を装ってみたり、喧嘩をふっかけて強くみせようと、随分と無理をして苦労しておられたようです。結局、本来の自分にはドラマや映画になるような派手な逸話はないし、喧嘩も好きではない。逆に聞き上手で、どんな相手にでも素直に話ができる本来の性格に気づいて、自分自身がそれを受け入れた事が支えになっていると話しておられました。



分自身の有様を認め、受け入れる事ではないでしょうか。

仏教ではさとりを表す言葉の一つに「無我」と言いますが、無我の境地に至るには、まず「我(自己)」を知らなければなりません。釈尊はまさに「我(自己)」を知ることに基づいて、そこから無限に広がる縁

舎息

親鸞聖人



より二世紀余りも後輩の臨済宗大徳寺派の一休宗純(一休は道号)がその境地を示す号、法名は「てうじゆん」。一四八一年寂)は、親鸞聖人を心から慕っていました。

一休さんは、宗派の違いにこだわること嫌いました。一休さんも自分を愚者 悪人と考えていました。二世紀余をへたてて、親鸞聖人と一休さんは対面しているのです。お二人はよく似ています。しかし、お二人とも煩惱に燃えながら、煩惱が煩惱でないものに昇華しているのを感じます。一休さんは、親鸞聖人を尊敬する余り、臨済宗から浄土真宗へ転向しようとしたことまであります。

一休さんは、蓮如上人(一四九九年寂)と親交がありました。一四六一年、一休さんは親鸞聖人の二〇〇回忌大法要に参列

起の法を表そうとされたのです。その意味では親鸞聖人ほど自分をこまかす事を畏れ、自己の内面を深く見つめ続けた方はいないのではないのでしょうか。自身の好きな部分も嫌いな部分も合わせて受け入れていくことが「自分らしさ」に気づく一歩ではないのでしょうか。

し、「采世相応の心」と題して、「えりまきの／あつたかさうな黒坊主／こいつが法は／天下一なり」(黒坊主親鸞聖人の「真影のこと」とたたえています。一休さんは親鸞聖人の画像を所望しました。蓮如上人は画師に命じて画像を描かせ、上人が題名を書いて一休さんに贈りました。一休さんは、親鸞聖人の画像に前記の短歌を書いて、自坊の酬恩庵でたいせつにされました。

一休さんは亡くなる直前、「この先、どうしても手に負えない深刻な事態が起きたら、この書状を開けなさい」と、弟子たちに一通の手紙を残しました。数年後、弟子たちに今こそ師の知恵が必要という重大な局面が訪れました。固唾を呑んで開封した弟子たちの目に映ったのは次の言葉でした。一枚目「大丈夫」、二枚目「心配するな」、三枚目「なるようになる」。弟子たちは大笑いして落ち着きを取り戻し、難題を解決することができたといえます。

▼私たちが「ねばならぬ」といって過ぎて問題解決の道を自ら閉ざしていることが多いのかもしれない。

仏事作法指南道場

第5回 表書きのお作法



岡部惇信(報徳寺副住職)が仏事における金封の表書き等について、次の通り指南した。

②葬儀・法事・法要時の表書き

○「御佛(仏)前/御供/御香典(奠)/御香資」と書きましょう

×御霊前

【理由】阿弥陀仏にお供えをするので「御佛(仏)前」が正しい。単に「御供」でも結構です。「香」という文字を用いるのは、葬儀などでお香を御供えする儀礼が古くからあったため。尚、「御霊前」は故人の霊に対するもの。礼拝の対象を御本尊阿弥陀仏とする浄土真宗では用いられません。

③袋の向きは?

【ケース一】「御布施」等を渡す時は、受け取る相手から見て「表書きが読める方向」にして渡します。

【ケース二】本堂やお仏壇などに直接お供えする場合は、自分から見て「表書きが読める方向」にしてお供えします。

④水引きの種類

色や結び方など特に決まりなし。世間の慣習に準じます。

◎葬儀⇒黒または銀

◎中陰・年回法要⇒黒または黄

◎入仏式・結婚式・初参式等の慶事⇒赤

①寺院・僧侶へ渡す際の表書き

○「御布施」と書きましょう

×お経料×回向料×供養料

【理由】お布施は読経に対する謝礼ではありません。お布施は大きく三つに分けられます。

- i 「法施」(仏法を伝えるお布施)
- ii 「財施」(金品によるお布施)
- iii 「無畏施」(人々の恐怖や畏れを取り除き安心を与えるお布施)

つまり「法施」を行う寺院・僧侶に対し、教えを受ける側は、仏法が護られ永代に亘って伝わるよう「財施」を行って教団・寺院を維持してきたのです。